

学校不適応支援に関する調査 2026

【高等学校養護教諭対象】

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

○この調査は、いじめや不登校といった「学校不適応のある生徒への支援体制の現状」について、先生のお考えについてお聞きするものです。

○調査対象者は、高等学校第2学年学年主任の先生です。

○正しい答え・間違った答えなどはございませんので、ご回答される先生の思った通りにお答えください。

○本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。

○それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。

ご回答もれないようにお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【回答期限：9月7日(月)まで】

【 】 ご回答される先生と学校（基本情報）についてお答えください。

(1) 貴校の所在地について選んでください。

□東京都 □神奈川県 □埼玉県 □千葉県

(2) 貴校の学校種について選んでください。

☐ 高等学校 ☐ 中等教育学校 ☐ その他 ()

(3) 貴校の設置種について選んでください。

☐ 公立校 ☐ 私立校 ☐ 国立校 ☐ その他

(4) 貴校の形態について選んでください。

☐ 共学校 ☐ 男子校 ☐ 女子校 ☐ その他

(5) 貴校の生徒在籍数について選んでください。

☐ ~ 100 名 ☐ 100 名 ~ 200 名 ☐ 200 名 ~ 300 名 ☐ 300 名 ~ 400 名 ☐ 400 名 ~ 500 名
☐ 500 名 ~ 600 名 ☐ 600 名 ~ 700 名 ☐ 700 名 ~ 800 名 ☐ 800 名 ~ 900 名 ☐ 900 名 ~ 1000 名
☐ 1000 名以上

(6) 受受験時における貴校のおおよその偏差値帯について選んでください。

☐ 40 未満 ☐ 41 ~ 50 ☐ 51 ~ 60 ☐ 61 ~ 70 ☐ 71 以上 ☐ 不明

(7) ご回答されている先生の性別について選んでください。

☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他

(8) あなたの教員勤務年数 (教員経験年数) について選んでください。

☐ 5 年未満 ☐ 5 年以上 10 年未満 ☐ 10 年以上 20 年未満 ☐ 20 年以上

(9) あなたの現任校での在職年数について選んでください。

☐ 1 年未満 ☐ 1 年以上 3 年未満 ☐ 3 年以上 5 年未満 ☐ 5 年以上 10 年未満 ☐ 10 年以上 20 年未満
☐ 20 年以上

【 2 】 回答される先生ご自身についてお答えください。

【以下のそれぞれの項目について、ご自身にどの程度当てはまるかを考え、1 つお選びください。】

① これからも、私はいろいろな面で成長し続けたいと思う

☐ 1 全く当てはまらない ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 とても当てはまる

② 私は自分の生き方や性格をそのまま受け入れることができる

☐ 1 全く当てはまらない ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 とても当てはまる

③ 私は、周囲の状況にうまく折り合いをつけながら、自分らしく生きていけると思う

☐ 1 全く当てはまらない ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 とても当てはまる

④ 自分の時間を他者と共有するのはうれしいことだと思う

☐ 1 全く当てはまらない ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 とても当てはまる

☐1 全く当てはまらない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 とても当て本まる

☐1 全く当てはまらない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 とても当てはまる

☐1 全く当てはまらない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 とても当てはまる

☐1 全く当てはまらない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 とても当てはまる

☐1 全く当てはまらない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 とても当てはまる

☐1 全く当てはまらない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 とても当てはまる

【対象課題：発達障害(その可能性)がある生徒への対応 / 不登校生徒への対応 / メンタルヘルスに関する課題のある生徒への対応】

・ 1 番目に課題だと思うもの： ()

・ 2 番目に課題だと思うもの： ()

・ 3 番目に課題だと思うもの： ()

$$(\quad)$$

【3】不登校の早期支援のために行っている取り組みについてお答えください。

★1 生徒の「不登校傾向（登校しぶり等）」を早期に特定するために、日頃の観察や情報把握において、以下の「初期サイン（予兆）」をそれぞれの程度重視していますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

① 朝の遅刻・欠席の増加

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

② 保健室の利用頻度の増加

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

③ 授業中の居眠りや意欲の低下

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

④ 友人関係の急激な変化や孤立

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

⑤ 提出物の未提出や学業成績の急落

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

⑥ 保護者からの連絡（朝起きられない、行き渋るなど）

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

⑥-2 上記で「ある程度重視している」「非常に重視している」と回答したサインについて、あなたが「要支援状態（初期サイン）」と判断する具体的な基準（例：週に○回以上の遅刻、○日以上連続欠席、以前と比較した様子の変化など）があれば、具体的に教えてください。

(
)

★2 学校全体、あるいは学年・組織として行っている「不登校の未然防止・早期対応」の取り組みについて、あなたの勤務校における現在の実施状況として最もあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

⑦ 定期的なアンケートの実施（学校適応感やメンタルヘルスの調査、登校しぶりのスクリーニング等）

☐全く実施していない ☐あまり実施していない ☐ある程度実施している ☐組織的に実施している

⑧ 組織的な情報共有体制の確立（学年会議やケース検討会での、気になる生徒の情報共有やアセスメントのルーティン化）

☐全く実施していない ☐あまり実施していない ☐ある程度実施している ☐組織的に実施している

⑨ 専門職を活用した面接体制の構築（スクールカウンセラー（SC）等による、全員面接や重点的な面接の実施）

☐全く実施していない ☐あまり実施していない ☐ある程度実施している ☐組織的に実施している

⑩ 予防的心理教育プログラムの実施（ストレスマネジメント教育、構成的グループエンカウンター等の授業実践）

☐全く実施していない ☐あまり実施していない ☐ある程度実施している ☐組織的に実施している

⑪ 保護者との連携（不登校の前段階・登校しぶりの時期における保護者からの早期相談対応）

☐全く実施していない ☐あまり実施していない ☐ある程度実施している ☐組織的に実施している

⑪-2 上記で「ある程度実施している」「組織的に徹底して実施している」と回答した取り組みについて、具体的な実践内容（例：使用しているアンケート名、ケース検討会の頻度、心理教育の実施回数など）、あるいはその他に独自に行っている未然防止策があれば、具体的に教えてください。

（

）

【４】保健室の利用ルール及び運用状況についてお答えください。

(1) 貴校には、保健室の利用ルール（入退室の手続き、休養時間の制限など）が存在しますか。最も近い

ものをお選びください。

☐生徒手帳や保健だより、掲示等で明文化されており、全教職員・生徒に周知されている。

☐明文化されているが、全教職員・生徒への周知は不十分である。

☐明文化はされていないが、教職員間に「暗黙の了解（ローカルルール）」として存在している。

☐明文化されておらず、暗黙の了解もない（養護教諭が都度、個別に判断している）。

☐その他（ ）

（２）上記でルール（暗黙の了解を含む）がある場合、その具体的な内容を教えてください。

（
）

（３）保健室の利用ルールはどの程度守られていますか。

☐ほとんど守られていない ☐あまり守られていない ☐ある程度守られている ☐厳格に守られている
☐その他

（４）保健室の利用ルールの設定や運用について、困っていることや悩んでいることがあれば具体的に教えてください。

（
）

【５】保健室登校・精神医学的課題・単位欠時への対応についてお答えください。

(1) あなたの勤務校では、教室に入りづらい生徒が保健室で過ごす「保健室登校」を認めていますか？

☐認めている（日常的に受け入れている）

☐条件付きで認めている（期間や時間を限定するなど）

☐認めていない（原則として別室や相談室等へ誘導するなど ※「認めていない」場合は(2)～(5)を飛ばして(6)へ）

（２）保健室登校をしている生徒への日頃の対応において、以下の活動それぞれについてどの程度重視していますか。

① 「休養の確保」：心身の症状改善や休息、エネルギー回復など

☐ほとんど重視していない ☐あまり重視していない ☐ある程度重視している ☐とても重視している

②「心理的ケア」：対話、傾聴、カウンセリング的関わり

☐ほとんど重視していない ☐あまり重視していない ☐ある程度重視している ☐とても重視している

③「学習支援」：自習や提出物の作成など

☐ほとんど重視していない ☐あまり重視していない ☐ある程度重視している ☐とても重視している

④「次のステップへの働きかけ」：教室や別室への復帰・移行・他校への転学を視野に入れた働きかけ

☐ほとんど重視していない ☐あまり重視していない ☐ある程度重視している ☐とても重視している

（３）高校生段階で高まりやすい重篤な精神医学的課題（抑うつ、自傷行為、摂食障害、強迫症状等）へのアセスメントや医療機関連携について、状況にどの程度あてはまりますか。

⑤「早期の受診勧奨」：背景に医療的課題が疑われる場合、保護者に対して専門医療機関への早期受診をスムーズに促せている。

☐全くあてはまらない ☐あまりあてはまらない ☐ある程度あてはまる ☐非常にあてはまる

⑥「受診の家庭的困難へのアプローチ」：受診を促しても保護者の理解が得られなかったり、経済的・家庭的事情により専門医療機関への受診に繋がらないケース（困難ケース）に直面することが多い。

☐全くあてはまらない ☐あまりあてはまらない ☐ある程度あてはまる ☐非常にあてはまる

⑦「主治医の指示の組織共有」：医療機関を受診した生徒について、診断名や主治医からの配慮事項の情報を吸い上げ、担任や学年全体へ迅速に共有できている。

☐全くあてはまらない ☐あまりあてはまらない ☐ある程度あてはまる ☐非常にあてはまる

⑧「医療情報に基づく組織対応」：主治医の診断や指示に基づき、定期考査の別室受験や提出物による代替評価など、具体的な合理的配慮が校内で適用されるよう教育相談や管理職との間をコーディネートしている。

☐全くあてはまらない ☐あまりあてはまらない ☐ある程度あてはまる ☐非常にあてはまる

（４）単位欠時（留年・中退リスク）が直結する高等学校において、保健室登校（傾向）生徒への対

応や関係職員との調整について、状況にどの程度あてはまりますか。

⑨「残欠時数の定期的確認」：生徒が留年ラインを超えないよう、学級担任や学年主任と日常的に連絡を取り、生徒の教科ごとの残りの欠時数を正確に把握している。

☐ 全くあてはまらない ☐ あまりあてはまらない ☐ ある程度あてはまる ☐ 非常にあてはまる

⑩「出席・見学扱いの交渉」：保健室滞在中の生徒に対し、自習やレポート作成等を行うことで、実質的な「出席」や「体育等の見学」としてカウントしてもらえよう、学年や教科担任に掛け合っている。

☐ 全くあてはまらない ☐ あまりあてはまらない ☐ ある程度あてはまる ☐ 非常にあてはまる

⑪「制度のタイムリミットの提示」：体調不良を訴え休養を望む生徒・保護者に対し、養護教諭の立場からも「これ以上休むと進級に関わる」という高校の制度的タイムリミットを明確に伝える関わりを行っている。

☐ 全くあてはまらない ☐ あまりあてはまらない ☐ ある程度あてはまる ☐ 非常にあてはまる

⑫「現実的な進路変更の相談」：本校での単位修得が困難と見込まれる場合、体調の回復を最優先とするため、通信制高校や定時制高校への転学（進路変更）も含めた相談・情報提供を担当等と並行して行っている。

☐ 全くあてはまらない ☐ あまりあてはまらない ☐ ある程度あてはまる ☐ 非常にあてはまる

【6】キャリアカウンセリング領域に関する支援についてお答えください。

【以下のそれぞれの項目について、不登校または不登校傾向にある生徒への日頃の関わり（面接や保健室対応等）の中で、どの程度支援を行っているかを考え、もっともあてはまる番号に○をつけてください。】

① 生徒が自身の長所や得意なことに気づき、自己肯定感を高められるよう援助している。（例：活動成果や作品を具体的に褒める等）

☐ 1 全く行っていない ☐ 2 ☐ 3 どちらともいえない ☐ 4 ある程度行っている ☐ 5 十分に行っている

② 生徒が不登校に伴う不安やストレスに対処する方法（コーピング）を一緒に考えている。（例：リラ

ックスできる呼吸法を教える等)

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

③ 生徒が自分の現在の状態(学校に行けない現状など)をありのまま受け入れられるよう情緒的に支えている。(例:登校できない罪悪感を和らげる等)

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

④ 生徒が自らの苦手さやうまくやれないことを理解し、それも自分の一部分として受け入れられるよう(自己受容)援助している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑤ 保健室や面接の場で、生徒が安心して他者(教師や他の生徒など)とコミュニケーションをとれる環境を整えている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑥ 生徒が周囲の人々(家族、教師、友人など)の立場や気持ちを想像し、理解できるよう促している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑦ 小集団活動や個別の関わりを通じて、生徒が集団内での自分の役割や居場所を見出せるよう援助している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑧ ソーシャルスキルトレーニング(SST)など、対人関係や社会的スキルを育成するための心理教育的アプローチを取り入れている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑨ 生徒が学業の遅れを取り戻すための具体的な学習計画の作成や、学習環境の調整をサポートしてい

る。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑩ 生徒が学校生活のルールや、遅刻・欠席をめぐる問題に対して自ら具体的な解決策を見出せるよう促している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑪ 生徒自身が今後の生活や進路に必要な情報（学校の制度やサポート機関など）を自ら調べ、選択できるよう援助している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑫ 生徒が一人で問題を抱え込まず、必要に応じて周囲の大人や友人に助けを求める力（援助要請スキル）を育む援助をしている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑬ 生徒が将来の生き方や就きたい職業について、前向きな展望（キャリアイメージ・キャリア意識）を持てるよう関わっている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑭ 元の教室への復帰だけでなく、多様な進路（通信制高校、定時制、サポート校、オルタナティブな学びの場、早期就職など）の選択肢を提示し、生徒自身の主体的な選択を尊重している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑮ 将来の目標や社会的自立に向けて、今どのようなステップを踏めばよいか、具体的な人生設計（ライフプラン）を一緒に組み立てている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

⑩ 現在の学校（保健室）生活やこれまでの経験（不登校の経験含む）が、将来の社会的自立や社会的な役割にどうつながっているかを理解できるよう促している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

【7】不登校支援における養護教諭としての困りごと・連携についてお答えください。

★1 不登校生徒の対応や保健室受け入れを行うにあたり、どのような点に難しさや困り感（ストレス）を抱えていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

① 本来業務の圧迫（不登校生徒の保健室滞在が長期化・多人数化し、救急処置や健康診断などの本来業務が圧迫される）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

② 臨床的専門性の限界（生徒の深刻なメンタルヘルス不調や複雑な家庭背景に対する自身の臨床的専門性の限界）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

③ 同僚教員との温度差（学級担任や学年スタッフから「保健室が甘やかすから教室に戻れない」といった暗黙の視線・温度差を向けられる精神的負担）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

④ 組織的助言の難しさ（担任教員等の登校刺激が強すぎる（または不適切である）と感じるが、養護教諭の立場から対応方針の助言を受け入れてもらにくい）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑤ 保護者対応とリファールの難しさ（外部の医療機関やSCへ繋ぐべきケースと判断しても、保護者の拒絶や予約の取りづらさにより繋ぎが進まないもどかしさ）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑥ 役割の曖昧さと葛藤（保健室に長期間滞在している生徒に対し、学習面や進路指導の具体的なサポートをどこまで養護教諭が担うべきかという曖昧さ）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑦ 制度と臨床の板挟み（葛藤）（「保健室で十分に休養・回復させたい」という臨床的判断と、「これ以上休むと留年になる」という高校の制度的タイムリミットとの板挟み）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

★2 不登校（傾向）生徒へのキャリア支援・保健室対応を行う際、校内のスタッフや外部機関とどの程度の頻度で情報を共有し、連携していますか。もっともあてはまる頻度に○をつけてください。

対象機関・スタッフ	全く連携していない	学期に1回程度	月に1回程度	週に1回程度	ほぼ毎日
1. 学級担任・学年教員	1	2	3	4	5
2. 教育相談（別室登校）担当教員	1	2	3	4	5
3. 特別支援教育コーディネーター	1	2	3	4	5
4. スクールカウンセラー（SC）	1	2	3	4	5
5. スクールソーシャルワーカー（SSW）	1	2	3	4	5
6. 管理職（校	1	2	3	4	5

対象機関・スタッフ	全く連携していない	学期に1回程度	月に1回程度	週に1回程度	ほぼ毎日
長・副校長等)					
7. 教育センター等 (教育委員会含む)	1	2	3	4	5
8. 医療機関	1	2	3	4	5
9. 児童相談所・子ども家庭支援センターなど (福祉関係含む)	1	2	3	4	5

⑦-2 上記の連携の中で、不登校生徒の社会的自立 (キャリア発達) を促す上で「特に有効に機能している連携」または「機能しておらず課題と感じる連携」があれば、その具体的な理由を教えてください。

(
)

⑧ 現在の学校システムにおいて、不登校傾向のある生徒への「早期発見・キャリア支援」を充実させるために、今後どのような体制構築や支援 (ガイドブックやマニュアル、研修等) が必要だと考えますか。あなたの意見を率直にお書きください。

(
)

【6】 個別の事例についてお答えください。

先生がご経験された中で、発達障害（その可能性）、または類似した症状のある生徒（以下、生徒A）の問題が複雑化してしまったケースや、転退学に至ってしまったケースについて、1つの事例を振り返ってご記入ください。※個人が特定されないよう、配慮してお答えください。

- ① 生徒 A の学年 □1 年 □2 年 □3 年

- ② 生徒 A の性別 ☐ 男 ☐ 女 ☐ その他

- ③ 生徒 A の問題として、あてはまるものの全てにチェックしてください（複数回答可）。

□生活面における問題：（例）欠席や遅刻が改善されず生活指導部指導となってしまった。身の回りの整理ができず日々忘れ物が多い。

□学習面における問題：（例）教科の提出物がまったく出せないため、単位修得ができなかった。

□対人関係における問題：（例）周囲との人間関係がうまくできないため、クラスや学校になじめていなかった。

□進路指導における問題：（例）自分の実力に伴わない進路に固執してしまい、結果、不本意な進路となってしまった。

□その他の問題：（例）病院や専門機関をすすめた結果、本人や保護者との関係がこじれた。

- ④ 具体的に、生徒 A の抱えていた問題とは、どのような問題でしたか？具体的にお書きください。

(

)

【最後に】

学校不適応対応について、別途インタビュー調査にご協力いただける場合は、下記に学校名と担当者のお名前をご記入くださると幸いです。なお、これまでのご回答内容に関しましては、統計上の処理を施すため、学校名が特定されることは一切ございませんので、ご安心ください。

- ⑤ 学校名 ()

- ⑥ 担当の先生のお名前 ()

アンケートは以上で終了となります。ご協力いただき、ありがとうございました。